

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひっぼファミリー桃ヶ池		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教室内をテーマごとに分けている事で児童達のどこで何をしたら良いかの認識が出来ている。	来所時間や年齢が1歳～6歳と違う点を考慮し、各ブースで行う事で職員配置が明確になりました。	児童達が出来た事への向上心を育てる。
2	5領域での目標を職員が明確化できるようになった。	パズル：形認識を出来る。 発語を増やす：絵カード等を使っています。 体幹を鍛える：トランポリンやサーキット等を行っています。	ステップアップ：各児童の目標→達成→次の目標を既に作成しています。 (例：ひらがな50音→視覚認識→なぞり書き等)
3	お片付け：都度の声掛けで身に付いてきています。 トイレトレーニング：声掛けでトイレに行ける児童が増えました。	お片付け：来所時の玄関から室内に入ってからルーティンを職員が個別でサポートしていますので覚えてくれるのが早くなる。	室内でのルーティン：カバンを決まっている場所に直す→手洗い/うがい→検温→連絡帳を出して決めてある場所に置く→(おやつ)→課題に取り組むまでを職員が個別にサポートする。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	来所時間や年齢が1歳～6歳と違う点を考慮する。	障がい児童の特性が違う。	スタッフの研修を増やし、特性への理解を深める。 各児童のコミュニケーションの機会を増やす。
2	父母の会の開催等が出来ていない。	保護者様の就労等の関係でなかなか難しい所と朝から児童達をお預かりしているので、職員にも時間の余裕が無い事。	弊社ご利用の保護者様が開催されている会をお知らせしていきたいと思っております。
3	通所して頂いている児童達が全員で一緒に出来る事を見つける。	年齢の違いや障がい児特性が違う為、かなり難しい点。	時間をかけて工夫して実現出来るように努める。